

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

長崎大学移植・消化器外科での研修を終えて

平塚市民病院外科

筒井 麻衣

平成30年12月10日から21日までの2週間、母校長崎大学の移植・消化器外科で研修の機会をいただきました。私は長崎大学を平成19年に卒業後、平成21年より慶應義塾大学一般・消化器外科に入局、上部消化管班に所属し、卒後8年目より関連の市中病院に出向しております。そのような中今回の外科研修のお話をいただき、卒業後、母校を離れて外科医として一定の研鑽を積んだ現状で再度母校での臨床や教育に是非触れたいと思い、志望させていただきました。

研修では胃・食道外科班に加えていただきました。金高賢悟先生以下、米田晃先生、小林慎一朗先生の3名と初期臨床研修医の構成で、手術、外来、検査、教育、外勤を担当されており、とても忙しい日々でした。研修中は緊急を含め、全ての手術に手洗いで参加させていただきましたが、食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下縦隔郭清+腹腔鏡下噴門側胃切除（over lap吻合）、食道癌根治術後の#101Lリンパ節再発摘出術、胸腔鏡腹腔鏡併用食道癌根治術、腹腔鏡下スリーブ胃切除と、自分が是非見学したいと思っていた手術の手技を直に学び、その場で疑問点にも答えていただけ議論も深められる、極めて恵まれた環境でした。私自身は食道癌の胸部操作は、flexible 3Dカメラを用い、左側臥位+腹臥位のhybrid体位で行い、再建は後縦隔経路で行っておりますが、長崎大学では30°斜視鏡で55型の4K高精細モニターを用いて腹臥位、胸骨後再建で行っており、拡大視効果と腹臥位による良好で安定した視野で、非常に精密な郭清手技と定型化の下で安全を期したベストの手術が施行されていまして、自身の経験と、新たに得られた視野や教えていただいたtipsを比較し、自分でどう応用できるのか考えることは非常に有意義な時間となりました。過去に映像で勉強したものの、実際に経験したことのなかったNIMシステムを用いての反回神経損傷を防止する手技やスリーブ胃切除を経験し、デバイスの使い方や術後管理まで詳細に勉強でき、将来自分が臨床へつなげるための材料とすることができました。食道外科専門医であり内視鏡外科学会の技術認定医である金高先生のご指導の下1学年先輩の小林先生が昨年の技術認定医審査に合格されており、技術認定医取得のために必要な戦略や技術について、合格ビデオも含めて実際にご教示いただいたことも大きな糧となりました。小林先生が自分と同じく、外科医でも内視鏡検査・処置に情熱を持っておられ、内視鏡処置まで一緒に行うことができたことは楽しい時間となりました。また、米田先生には細かな周術期管理や病棟業務についても質問にお答えいただき、研修がより濃密なものとなりました。

手術以外でもたくさんのことを学ばせていただきましたが、麻酔科医と外科医で行われる毎朝のICUカンファレンスでは、最高峰の医療機関である大学病院と市中病院の地力の差を改めて痛感しました。高度侵襲手術や重症患者の緊急手術時にはベテランの麻酔・集中治療専門医を中心に、極めてスムーズに麻酔導入、覚醒、ICU管理がされ、患者が順調に回復する過程を目の当たりにして、「最高の医療を提供する」ことの重要さと、市中病院にいる自分のもどかしさをひしひし感じました。

今回の研修では、母校の教育にも再度触れたいと強く思っていました。学生時代から、自分を外科のメンバーのように扱い、多くを教えていただいた実習はとても充実しておりましたが、今回術前・術後・回診前カンファレンス、抄読会、合併症カンファレンス、学生発表にも参加させていただき、学生から初期研修医、後期研修医、スタッフと、教育への強い熱意を感じました。手術では学生と初期研修医が

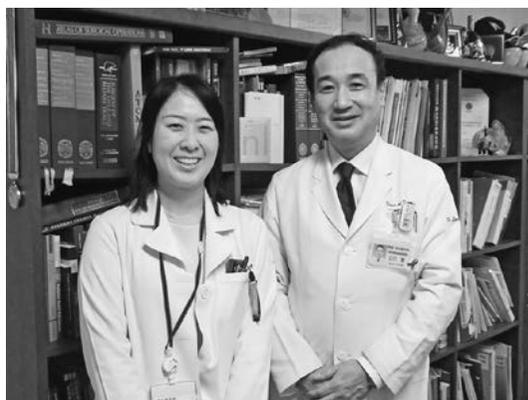
開腹や閉創の機会を得、カンファレンスでは後期研修医が術前、回診時のプレゼンを行い、手術執刀の機会も得る、術後カンファレンスや抄読会では学生や研修医に向けて、スタッフがわかりやすくプレゼンをすることで、より理解が深まる流れが来ていました。多くの先生が「人数が少ないから、早く戦力になって貰わないといけないからね」とおっしゃるものの、忙しい日常業務の中で自然に教育の体制が出来上がるとは思えず、長い歴史と試行錯誤の中で育まれた伝統であろうと、卒業生として嬉しくなりました。移植・消化器外科以外に進んだ同級生とも、緊急処置や検査、カンファレンス、手術で関わる機会も予想外に多く、中堅スタッフとして堂々と活躍している姿にとっても刺激を受けました。

医局に専用の机と院内PHSまでご準備いただき、何年も勤務している錯覚さえ覚え、母校であることに甘えっぱなしの2週間でしたが、想像を遥かに超える充実した研修となりました。紙面が許せばまだまだご報告したいことが尽きません。今後は自分が得たことを少しずつ還元できるように、努力しなくては、と思っております。

末筆となりましたが、このような素晴らしい機会をくださいました日本臨床外科学会 跡見裕会長、国内外科研修委員会 高山忠利委員長、推薦してくださいました日本臨床外科学会神奈川県支部 遠藤格支部長に心より御礼申し上げます。また研修の受け入れをいただきました長崎大学移植・消化器外科 江口晋教授、様々な調整をいただきました医局長の足立智彦先生ほかすべての先生方に感謝を申し上げます。多忙を極める業務のなか、2週間の長期に渡る不在を許し、カバーして快く送り出してくださいました平塚市民病院の金井歳雄院長以下、外科スタッフ、レジデントに深く感謝申し上げます。私の国内外科研修報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。



食道癌根治術（胸腔鏡）にスコーパーとして参加



研修最終日、江口晋教授と